

### 三社合併した神社

厳島社(祭神 市杵島姫命)

吾妻社(祭神 橘姫命)

八幡社(祭神 応神天皇)

大正時代まで小袋谷には三つの神社がありました。厳島社、吾妻社、八幡社です。三社とも関東大震災で社殿が倒壊しましたが、大正十五年に寄付を集め、昭和二年にそれまで八幡社があつた亀甲山の頂きに厳島社の社殿を再建しました。経済的事情からか再建した社殿は一つだけ、吾妻社を昭和四年に合祀し、八幡社を昭和八年に合祀したので、現在の厳島神社は三神を祀っているのです。

八幡社の名を見れる一番古い年月が明らかかな文献は、一八〇六年に完成した浦賀道見取絵図です。八幡社は成福寺の鬼門除けの社として建てられたと言われていますが、のちに村所有の社になりました。社があつたのは現在の厳島神社とほぼ同じ場所です。

吾妻社の名を見れる一番古い文献は、一七五四年にこの時の領主松前家に提出された名主の願書です。社があつたのは公会堂の辺りです。明治六年に鎌倉郡役所が作成した廃寺社の名簿に吾妻社の名が載りましたが、どういう訳か廃社されませんでした。また大震災前まで徴兵逃れのご利益があるという俗信があつて、遠くからお参りに来たそうです。

厳島社は江戸時代まで弁天社という神社名でした。弁天社の名を見れる一番古い文献は一六七八年に幕府の代官によって行なわれた検地の明細帳です。この検地帳から、成福寺と共に弁天社が年貢免

除の畑の所有を認められていた事が判ります。社の場所は、成福寺そばの踏切から西に向かつて敷地があつたようです。また江戸時代のある時期、吾妻社のそばに遷っていた時もありました。

弁天社は、明治の初めに政府の神仏分離政策によつて厳島社に改名させられ、また祭神も替えさせられたかもしれませぬ。村人三人ほどで、宮島の厳島神社に神霊分けしてもらいに行つたという話が伝わっています。そして、明治六年には村の鎮守として村社の社格を与えられました。明治二年ごろ海軍の強引な横須賀線開業工事にもない、社地を半分以上とられた厳島社は、吾妻社の隣に遷されました。

冒頭にも書きましたが、大正十二年の大震災の後、昭和の始めに亀甲山の頂きへ遷され厳島社、吾妻社、八幡社の三社が合併して、現在の厳島神社となりました。その後、昭和三八年ごろの江ノ電分譲造成の時に、境内の形状や社殿の位置が今の様になりました。